

全国協議会 ニュース

2014年2月1日発行 第260号

発行所 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会 〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4 KTビル3F TEL.(03)5823-6360 FAX.(03)5823-6365 発行責任者:野村正満 http://www.marrow.or.jp/ E-mail:office@marrow.or.jp

郵便振替口座 00150-4-15754 銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 普通 5666655

新法の「基本方針」告示

「関係者の連携」の中にボランティア位置づけ

「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」が今年1月1日に施行となったことに伴い、具体策を示す「基本方針」が同日告示されました。これに先立つ昨年12月27日付で、二つの厚生労働省令と自治体首長あての指針(ガイドライン)も通知されています。

「基本方針」を定めるため、厚生労働省の厚生科学審議会 疾病対策部会造血幹細胞移植委員会が議論されましたが、その中で全国協議会の野村正満理事長も意見陳述を行いました。論議の対象となった基本方針案では、ボランティアの存在に触れられたのは「現状」を説明する部分だけで、野村理事長は「ボランティアの果たす役割と位置づけを明確にしてほしい」と強く訴えました。

1月15日に告示となった「基本方針」では、「現状」の中でも引き続き「造血幹細胞の提供においては、ボランティア等が大きな役割を果たしてきており、骨髄、末梢血幹細胞のドナー登録の推進や採取施設とさい帯血バンクの間のさい帯血の搬送、患者相談の取り組み等において活躍している」と述べられています。それ以上に、新たな表現として「関係者の連携」の部分で、次のように定義されました。「国、地方公共団体、骨髄・末梢血幹細胞提供あつせん事業者(注:骨髄バンク)、さい帯血供給事業者(注:さい帯血バンク)、造血幹細胞提供支援機関(注:日本赤十字社)及び医療関係者は、場合にに応じてボランティア等の協

「新法」に照準

今年度のブロックセミナーが2月から3月にかけて実施されます。主な内容は次のとおりです。

【九州地区】2月16日(日) 午前9時半〜11時半、福岡市立中央市民センター。①各地団体からの取り組み・活動状況報告②「新法下でのボラン

ティア活動」(野村正満全国協議会理事長)など。なお、前日に開催される骨髄バンク主催の説明員研修会終了後(15日午後6時〜)、博多駅近くで懇親会を予定。
【中国・近畿地区合同】2月22日(土)午後1時半〜5時、徳島市新町橋の阿波おどり会館。①全国協議会からの報告「造血幹細胞移植・新法について」山崎裕一参与②徳島県の取り組み事例③各地

①全国協議会からの報告「造血幹細胞移植・新法について」山崎裕一参与②各地団体の活動報告③意見交換など。北海道地区、東北地区も3月実施に向けて計画中です。

徳島県の 骨髄バンク登録応援団 普及促進へ10事業所参加

徳島県の東部圏域(徳島保健所と吉野川保健所)では、「2013年度骨髄バンク登録応援団普及促進モデル事業」として、骨髄バンクへの理解とドナー登録のさらなる推進を図るため、圏域の店舗・事業所・団体等と呼びかけて「骨髄バンク登録応援団」への登録を徳島保健所が中心となって募集しています。

「骨髄バンク登録応援団」として登録された事業所等には、登録証・ステッカーが交付され、徳島県のホームページで紹介されます。登録の要件としては、東部圏域に事業所等を有し、次の4つのいずれかを満たしている。①従業員及び来客等に積極的に骨髄バンク登録制度の周知を図っている。②献血併行型ドナー登録会等を開催し、積極的に協力している。③骨髄ドナー休暇を導入している。④従業員などが骨髄バンク説明員の資格を取得しており、積極的に活動している。

13年12月末時点での登録事業所などは10団体で、ポスター掲示や献血併行型ドナー登録会にご協力いただいています。昨年10月のドナー登録



医療現場からの 最新情報 —その4

虎の門病院血液内科 山本久史 “Day 9 fever” との出会い

さい帯血ミニ移植の経験が増えていく中で、骨髄や末梢血の移植ではまず見られない、さい帯血移植特有の現象に気付きました。移植後の9日目前後に、感染症によらない発熱、皮膚の赤み、手足などのむくみ、下痢などといった症状が頻繁に起こることです。GVHD(ドナー細胞の攻撃)と似た症状ではありますが、起こる時期が大きく異なります。GVHDはドナー細胞が生着したあと、多くは移植後20日目以降に発症します。ところが、この特有な反応はPIR(生着前免疫反応)、あるいは“Day 9 fever”と呼ばれ、今や海外にも広く知れ渡っています。“Day 9 fever”が起こると、抗がん剤などでも殺せなかった白血病細胞が消える場合があり、Day 9 fever自体に抗腫瘍効果(白血病などの悪い細胞を攻撃してくれる効果)があるのではないかと考えられています。さい帯血は未熟で弱い赤ちゃん細胞と言われていましたが、移植後の早い時期から成長し活発に働いています。その可能性を秘めたさい帯血(赤ちゃん)を元気に育て、最終的に患者さんの体にうまくなじませるのも、われわれ移植医の仕事です。

私は、昨年の市長選で多くの皆さまから信任をいただき当選しましたが、原点である「いのちの尊厳、市民の命を守る」ことを、骨髄バンク運動を通じて学びました。そして、これからも「自分を大切にすること、自分のことのように他の人を大切にできること」当然のことを当然として行える社会を目指して頑張つてまいります。「踏まれても やさしき心もちよりに 陰で芽をふくく 百合の花」

ボランティアの仲間たち 泥谷光信さん(高知)の巻

ジョン万次郎のふるさと土佐清水市は、四国西南端に位置しており、海岸部のほとんどが足摺宇和海国立公園に指定されるなど、優れた自然景観を有し、高知県を代表する観光地として有名です。この土佐清水市に1997年4月、四国霊場八十八カ所



を自転車で行き、骨髄バンクのキャンペーン活動を行う「ツール・ド・空海」の一行が来訪され、その夜「いのちを考えるシンポジウム」が開催されました。このシンポジウムでは、白血病患者の代表として、和泉省作さんを追悼する記念行事として、この「白百合の会」から

骨髄バンクの最新情報をお知らせする 骨髄バンク NOW

(財団マンスリーJMDP(1月15日発行)より抜粋)

- 2013年の移植数、コーディネータ数
 - 年間移植数は1360件(国内ドナー→国内患者1343件、海外ドナー→国内患者4件、国内ドナー→海外患者13件)でした。2012年と比べ総数で24件増加し、前年比102%で過去最高となりました。
 - また、確認検査数は5606件、最終同意1656件でした。コーディネータ期間については、ドナーコーディネータ開始から骨髄採取までの期間の中央値が126日で、前年の122日より4日延長しました。
- 2013年のドナー登録者数
 - 新規ドナー登録者数は、前年の4万0013人に比べ6120人減の3万3893人(前年比15%減)となりました。都道府県別に見ると、前年同様に献血ルームへの説明員派遣を行った埼玉県が3314人で全国トップ、次いで東京都の3287人、さらに前年同様、ボランティア団体による登録者拡大の取り組みを実施した栃木県が2321人で続いています。また、9月から県の緊急雇用対策で県内2カ所の献血ルームへの説明員派遣を始めた神奈川県が1306人(前年789人)と大きく伸びています。
- 2014年度の移植対策関係予算案
 - 昨年末に閣議決定された政府予算案で、造血幹細胞移植対策に関する予算については、総額約20億3000万円(前年度比1億5000万円増)となりました。造血幹細胞移植の拠点病院整備のために3カ所追加計上(1億6400万円)されたほか、情報の一元的な提供を行うためのポータルサイト構築費用(6500万円)が計上されました。
- ◆日本骨髄バンクの現状(平成25年12月末現在)

	11月	12月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,631	3,273	441,525	601,047
患者登録者数	230	234	2,278	40,555
移植例数	117	92	—	16,409

 - 12月の区分別ドナー登録者数: 献血ルーム/1,405人、献血併行型集団登録会/1,688人、集団登録会/95人、その他/85人
 - 12月の年齢別ドナー登録者数(現在数)
 - 10代 3,065人/20代 72,288人/30代 151,232人/40代 171,096人/50代 43,844人
 - 12月までの末梢血幹細胞移植 累計33件
 - 12月の20歳未満の登録者279人
 - 2回提供ドナー 累計972人
 - ドナーリンパ球輸注療法実施 累計581件
 - 国際協力の現状
 - 海外ドナー→国内患者 累計移植数179件
 - 国内ドナー→海外患者 累計移植数230件

(注) 数値は速報値のため年月以降に訂正されることがあります。平成24年7月より集計方法が変更されました。

各地に骨髄バンクの啓発ノボリ

今年も箱根駅伝で新年スタート!

2014年1月2日(木)・3日(金)、今年も箱根駅伝コース沿道で、骨髄バンク普及啓発活動を行いました。

加盟団体メンバーと全国協議会メンバーは、例年どおり都内組と小田原・宮ノ下組に分かれての活動です。御成門、田町、戸塚(中継所付近)、小田原市内、風祭、宮ノ下、小涌谷。どこにも多数のノボリを設置しましたので、お気づきになった方も少なくないでしょう。

また、今年もプルデンシャル生命の皆さまからのご助力を得、スタート付近の内幸町から箱根まで、骨髄バンクの赤いノボリを展開していただきました。特に都内の光景は壮観で、沿道が患者さんを応援するノボリで埋められました。

本活動は、関東学生陸上競技連盟さまのご理解と、宮ノ下商店街の箱根駅伝応援実行委員会の皆さま、読売センター小田原中央・読売センター小田原報徳の皆さま、鈴廣蒲鉾さま、箱根町消防署さま、箱根恵明学園さまのご協力なしには考えられません。1月の寒空の下、応援にご協力くださった皆さまのご厚志に深く感謝申し上げます。

田町1

年明け早々の2日早朝7時、骨髄バンクのボランティアが田町駅前「芝5丁目交差点」に集合しました。手際よく「骨髄バンク」の赤いノボリを沿道に立て、テレビに映るポジションを確保し、選手の到着を待ちます。



箱根駅伝スタート地点の大手町から約5キロ、日比谷通りから国道15号線へ入るこの地点は、往路では選手が団子状態で通過します。穏やかな好天に恵まれ、それでも早朝の寒気の中、8時10分各校の1区を任された選手が猛スピードで通過していきましました。

2日の往路はアツという間の応援ですが、3日の復路ではこの場所が10区のゴール前の攻防地点となり、大学の威信を掛け一つでも順位を上げようと歯を食いしばって疾走する選手を応援できる絶好ポイントとなります。抜きつ抜かれつのレースを間近に見ながら、骨髄バンクの赤いノボリを振って、病室の患者さんにも映像が届くことを祈りながら、2日間みんなで応援しました。(東京の会・若木換)



箱根駅伝シーズンに箱根宮ノ下と小田原にお邪魔するのも、今年で5年目となりました。

田町2

今年も田町駅付近で、箱根駅伝の応援ボランティアとして参加しました。1日目の活動は、夜明け前に自宅を出発し電車の中で昇る日の出を眺めながら現地向かいました。そして、午前8時、大手町の読売新聞社前をスタートした選手は一つの集団となりアツと言いつきに目の前を通り過ぎました。

翌2日目は有楽町駅付近の火災事故の影響で田町駅に向かうJR線が全面ストップし、人であふれた上野駅から地下鉄に乗り継ぎ何とかたどり着きました。活動地点では絶好の場所を確保し、ノボリ旗を掲げ啓発用のチラシを配布しながら選手を待ちました。

午後1時過ぎ大手町のゴールを目指した選手が次々と目の前を通り過ぎて行きました。力走する選手と共に沿道で声援を送る人たちの頑張りをテレビで見ている患者さんが「病氣と闘う勇氣と生きる希望を持てるように」と願いながら活動を終えました。新年早々参加くださいました千葉の会・東京の会・埼玉の会の皆さまお疲れさまでした。(理事・木村純子)

私が駅伝シーズンに箱根宮ノ下と小田原にお邪魔するのも、今年で5年目となりました。ご存じの方もいらっしゃると思いますが、宮ノ下は商店街の皆さまが実行委員会を結成し、とても精力的に駅伝を盛り上げていらっしやいます。私たちの活動は、宮ノ下だけではなく、風祭や小涌谷などにも及びますが、活動の主軸となっているのは宮ノ下

で、実行委員会の皆さまの情熱とスペースをお借りして活動しています。コース沿道にノボリを持って立っていると、駅伝ランナーに送られる熱い声援が、まるでノボリを通じて、患者さんに送られているような不思議な感覚を覚えます。ボランティアの皆さまで、箱根駅伝での普及啓発活動に参加されたことがない方がいらっしゃいましたら、是非一度参加されることをお勧めします。この不思議な感覚を味わってください。宮ノ下以外でも応援・声援はあると思いますが、特に宮ノ下・富士屋ホテル前がお勧めです。

また最近では、読売新聞の小田原中央店さまや小田原報徳店さまにもご協力いただき、今年もポスターの展示やノボリの設置等していただきました。以前までは小田原ではそれほど活発な活動はしていませんでしたが、最近はこのような活動の広がりをみせています。

活動の拡大と同時に、人員は不足がちですので、もし来年の1月にも普及啓発活動がありましたら、たくさんの方のボランティアの参加をお待ちしております。(野平晋作)

山口から初めて、箱根駅伝



山口から初めて、箱根駅伝

箱根3

箱根駅伝は、家でコタツに入ってテレビで見ると、ずっと思っていました。しかし今年は一念発起、実物を見てやろうと、箱根の山までやってきました。

宮ノ下の商店街の皆さまは、骨髄バンクに協力的で、「あそこにはノボリを立てたらテレビによく映るよ」と喫茶店の窓を提供くださったたり、マイクで「骨髄バンクの募金にご協力を！」と言ってくれたり、大変ありがたかったです。

ツイッターやフェイスブックの仲間からも、「骨髄バンクのノボリがよくテレビに映ったよ」と励ましの言葉がリアルタイムに届きました。2015年も行きますかと尋ねられたら、「この感動を多くの人に味わってほしい」と答えます。(理事・山村詔一郎)

社員のボランティア活動を積極的に応援しているプルデンシャル生命保険では、箱根駅伝のコース沿道で骨髄バンクのノボリを掲げて、選手のもより若い選手たちが精悍な顔つきで心を一つにタスキをつないでいく姿に胸が熱くなります。応援団のボルテージも最高潮に達しました。

2日目(1月3日)は小田原市民会館近くで読売新聞の方たちと一緒に活動をさせていただきました。一緒に2日間活動を共にしたボランティア仲間とも熱い思いを共有でき大変有意義な経験をさせていただきました。

米子医療センターで開催し、約60名の方の参加がありました。今回は、会員の皆さまがいつも気にしている「もし病気が再発したら」をテーマにして主治医の先生から、いろいろと事例を交えながら治療方法について丁寧に教えていただきました。普段の忙しい診察時には尋ねにくいことについて、わかりやすく答えていただき、参加された方は心配事を少なくし、安心された気持ちで帰って来られたと思います。



米子医療センターで開催し、約60名の方の参加がありました。

私たちの会は「だんだんの会」(血液疾患患者家族会)といい、鳥取県骨髄バンクを支援する会事務局に準備段階から手助けしてもらい、今年で3年目を迎えました。事務局の方には本当に感謝! 感謝! です。現在、会員は家族も含め150名程で、年一回の総会と年2回テーマを決めて「ここに勉強会」と名付けて、このような勉強会を行っています。病院の看護師さんや会員以外の方にも多数参加していただいています。

このほかに、年6回ほど病院のサロンを借りて茶話会を開いてお互いの近況や次の計画などを話しています。総会や勉強会を通して大勢の方と出会い、お互いに、元気をもらいながら今年も活動しているかと思っています。(だんだんの会) 会長・吉澤一誠

各地のたより

「再発したら」テーマに患者会主催の勉強会に60名

11月2日(土)、血液疾患患者会主催の第5回勉強会を

プルデンシャル生命保険から寄付

社員のボランティア活動を積極的に応援しているプルデンシャル生命保険では、箱根駅伝のコース沿道で骨髄バンクのノボリを掲げて、選手のもより若い選手たちが精悍な顔つきで心を一つにタスキをつないでいく姿に胸が熱くなります。応援団のボルテージも最高潮に達しました。

心からのご寄付に感謝申し上げます

12月21日~1月20日 (敬称略)

三井化学株式会社	現金	200,000円
三井化学株式会社	チビットワンコイン	
徳島藍ライオンズクラブ	現金	200,000円
小口 健太郎	現金	4,294円
藤波 敬子	現金	1,000円
藤波 敬子	現金	10,000円
今野 小夜子	現金	2,000円
三品 雅義	現金	10,000円
塩谷 泰人	現金	1,000円
ダブルエスタイガー	現金	30,000円
鈴木 純子	現金	1,340円
匿名	現金	20,000円
匿名	現金	5,000円
●白血病患者支援基金		
姫路地区骨髄バンク推進センター	現金	20,000円
嶋津 桂子	現金	3,000円
やきとり「おぼこ」	現金	12,000円
箱根駅伝宮ノ下募金箱	現金	88,692円
●佐藤さち子患者支援基金		
中村 信	現金	5,000円
匿名	現金	10,000円
カラオケハウス マロン	現金	17,786円

活動資金の援助をお願いします
銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655
郵便振替口座
00150-4-15754
特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会